かわら版
第５回
最終回

一日も早い生活再建と、よりよい伊豆山での暮らしの再生の実現に向けて

伊豆山復興まちづくりワークショップ

発行：令和４年１０月

◆伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました！

令和４年９月２５日（日）１３時３０分から１６時３０分まで、熱海市役所第１庁舎４階第１会議室にて、新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで、第５回伊豆山復興まちづくりワークショップを開催しました。

当日は、台風 15 号の影響も心配されましたが、台風一過の快晴となり、19 名が参加され、ワークショップの目的と進め方をご理解いただいたうえで、今後の伊豆山のまちづくりでできることについて意見交換を行い、具体化した内容を共有していただきました。

日　　時：令和４年９月２５日（日）13:30～16:30
場　　所：熱海市役所第１庁舎４階　第１会議室
参 加 者：19 名

◆主な意見交換内容

１．第５回　「これからの伊豆山地区でみんなでできることを考えよう」

第５回のワークショップでは、第４回に５つのグループで意見交換した「みらいの伊豆山」を実現するため、みんなでできることのアイデアや知恵のうち、実現していくためのアイデアを１つに絞り込み、具体化を行いました。なお、第５回ワークショップでは、４グループに分かれて意見交換を行いました。

最後には「これからの伊豆山でみんなでできること」のとりまとめ内容を発表しあい、参加者同士で「みらいの伊豆山」に向けた取組みについて共有しました。

◆復興まちづくり計画への反映状況をご報告しました

伊豆山復興まちづくりワークショップは、参加者による復興まちづくりに向けた「アイデアを結集させる場」、「意見交換や知恵を出し合う場」として行ってきました。参加者同士で話し合いたい８つのテーマを設定し、グループ毎の提案として、取りまとめました。

こうした意見交換や熱海市伊豆山復興計画検討委員会での議論を経て、令和４年９月２日に熱海市伊豆山復興まちづくり計画を公表しました。

第５回ワークショップでは、伊豆山復興まちづくり計画の概要をご説明し、以下のようなご感想・ご意見が出ました。

・今現在で困っている人もいる中で、新設道路の整備が 30～50 年後も見据えた住宅再建（建替え等も含む）のためと住民説明会で説明があったが、復興まちづくり計画は長期的な将来も想定して作られているのか。
⇒（熱海市回答）計画の実施期間を短期、中期、長期としてそれぞれ設定しています。整備内容は将来的な視点も含めて検討されています。

・地域懇談会関係組織をつくるときも、被災者の代表やワークショップの参加者も含めるようにしてほしい。ワークショップに参加した人たちは、自分らで話し合ったアイデアを見届けたい人が多く集まっている。
⇒（熱海市回答）被災者の方にも参画してもらえるように、地域懇談会関係組織の進め方を協議しているところです。具体事業を検討する際にも、必要に応じてワークショップの実施を考えていきます。

中面に続きます➡

2．ワークショップで取りまとめた
各グループの「これからの伊豆山地区でみんなでできること」

1グループ

第４回ワークショップでとりまとめた「みんなでできたらいいアイデア」

① コミュニティバス設置の際の停留所やルート（自然郷）バスのような、湯河原、真鶴、熱海市内の既存とは別のルートを企業と話し合う。
② 開かれたコミュニティ風通しのよい住民主体の場を作りたい。
重要：来ても良し、帰って良しの平等の場/情報交換の場/話し合いの場と窓口の役割。
③ 以前あった足湯と銭湯を復活したい。
→地元の人の交流の場としての活用と街おこし、観光地としての盛り上がりを作る。
④ 避難経路を設定する際に、みんなで話をする場を作りたい。
（何が大変？階段？個人の気持ちを話す場）

「これからの伊豆山地区でみんなでできること」
風通しの良い開かれた住民主体のコミュニケーションの場づくり

《誰のため？》
高齢者、独居老人、障がい者、弱者、持病のある人にも、地域全体のコミュニティの中にいるすべての人に向けて情報が届く
《どういうコトを》
地域全体に情報が届く状態を作りたい。
自由参加で、みんなにわかりやすい場所で、かわら版や情報交換の場が知られるようにしたい。
まずイベントを（販促会等）
《どういう風に》
人が集まるクセ・習慣をつけていく（定期的なイベント）
《誰が　誰と》
婦人会、子供会、PTA の人に声をかけて住民同士で（ハマサロンみたいな）
《いつ頃》
出来るならば、今すぐにでも始めたいが、手が回らないかもしれないので、定住が落ち着いたら

4グループ

第４回ワークショップでとりまとめた「みんなでできたらいいアイデア」

① 集まる場、勝手に集まれる場がほしい（情報交換）
② ケータリングイベント開催　　※キッチンカーやマルシェ
③ 月１回、隔月、組で集まって避難経路確認や清掃をし、顔見知りになる
④ 避難先での情報がほしい　　エスポットの活用など
⑤ 避難所整備・避難路について今回の経験をまとめる（検証）
⑥ 旧逢初橋の再建
⑦ コミュニティバスの運行（湯河原・市内）
⑧ 移動販売車呼び込み　　交代でいろんなところの販売車に来てもらい選べるようにする（企業）
⑨ 助け合いの仕組みづくり（協力する、利用する）
⑩ 呼びこむんジャーの養成（おまつりのお手伝い等）

「これからの伊豆山地区でみんなでできること」
地区のみんなで集まる場をつくる！

背景：これまでの岸谷地区では、ネットワーク組織を作っても継続しなかった。しかし、困っている人たちが確実にいるので、気軽に相談できる場があればいいと思う。
《誰が（who）》
やってみたい人が呼びかけてみる
・対象：生活等困っている人が相談に来れる
《どんな内容（what）》
集まりさえすれば、お互いの強みを活かせるはず
個人情報の問題（連絡網をつくれない）
《どうやって（how）》
掲示板でお知らせ、掲示する（例えば、落ち葉拾い、喫茶、移動販売車…）

5グループ

第４回ワークショップでとりまとめた「みんなでできたらいいアイデア」

① 地域の中で情報を共有する場づくり
② 近所の人と心情を共有・話ができる場づくり
③ 行政の話を改めて聞ける場づくり
④ 他の人の考え（意味）を聞いて共有できる場

「これからの伊豆山地区でみんなでできること」

《内容（what）》

情報を知れて、言える場、行きたくなる場をつくる

・情報共有の場：湯河原は静岡の情報が入ってこない、スマホが使えない人もいる
・行きたくなる場：一部の人だけが行きたくなる場所はダメ、歩いて行ける場所にない、入りにくさ、なんらかの行く理由・選択肢がほしい
・意見を言える場、説明を貰える場

《いつ（when）》

定期的に、過程から共有

・その情報が決定事項になる前に、過程も聞ける、相談できる場として共有される

《どこで（where）、どのように（how）》

近くで集まれる、様々な方法で、テーマを決める（避難路、復興…）など工夫する

・実際に JA 跡地などのコミュニティの場に行ったことない

《誰が（who）》

私たち

7グループ

第４回ワークショップでとりまとめた「みんなでできたらいいアイデア」

① 伊豆山小学校を拠点とした各種イベントの開催（みんなのコンサート、地場ものの販売）交流と学び
② 実際に避難したルートを見える化し、避難道路をつくり防災訓練を実施する
③ 原風景を共有する（逢初橋、歴史を大切にする）学ぶ場
④ 町内会の役員のローテーションを促進する
⑤ コミュニティバスの運行について考える（リクエスト、ニーズ、ルール）
⑥ 避難時に高齢者の方を誰が乗せていくかを決める

「これからの伊豆山地区でみんなでできること」

避難経路（実際に動いたルート）を確認→地図にする

《対象者》200 人（63 条区域内） 周囲の人も入れると、500 人くらい？
・何を利用？・・・徒歩、車、バイク　ハシゴ
・寸断されたところ・・・　気づいたときにどうルートを変更したか？
・誰から（どこから）情報をもらったか？・・・SNS、警察、消防、その他
・動かなかった人（その理由）・・・どこを目指したかったのか？

昨年７月３日に、どのように避難したか？　どこを目指したのか？を調べる

《方法》①アンケート（回覧板に入れる、10 項目程度で〇つけてもらう）ルートも
②アンケート回収
避難所、避難場所（複数）
③近所で避難を受け入れてくれる場所を、見つける、探す、交渉する
④結果を公表する

※第４回ワークショップで、１，３，４，５，７の５つにグループ分けを行いましたが、当日の参加者数に応じてグループを再構成し、４グループ（１，４，５，７グループ）で実施しました。

裏面に続きます➡

３．全５回ワークショップのふりかえり　※いただいたご意見を原文のまま掲載

- ワークショップに来ているときは、前向きな気持ちになりました。
- 人に誘われて参加しました。日頃知り合う事のない方の声も聴けていい体験になりました。久し振りの方と会えたのもうれしかったです。じっくりと話を聞くと、同じ様な点に行きついたと思う。
- 会合に出席することに余り興味がなかったのですが、とりあえず皆さんがどうしているのかという事を知りたくて出席しました。
- 情報共有（コミュニケーション）の大切さをあらためて考えた。
- 時間的に長い時間でしたけど、まぁよかったかな。途中から参加しました。なかなか考えがまとまりませんでした。
- 色々な考えがあることは承知していたが、自分自身や他の人がどうしたら良くなるのか、まだわからない。とにかく情報の共有が必要。
- 色々聞いたが、最終的に地域の人とのつながりが大事と思った。より良くしたいと思う気持ちは変わらない。
- 色々な方の意見を聞くことが出来て良かった。まちづくり計画への今後の関わりも大事。神社線から上のことが見えないのが残念。
- 第１回から第５回までのワークショップで個々人の意見を集め、反映させていただきました。最終的には情報交換の場が一番必要ではないか、それぞれの思いが少しでも伝わり、分かり合えることが心の安らぎにつながり、次のステップになる。
- みんな伊豆山の自宅に早く帰りたい思いは強いことを実感した。それにはより良い伊豆山のまちづくりを考えて意見を出し合うことができ参考になったし努力していこうという決意も持てた。
- 自分でどんどん行動できる人と、そうでない人がいるが、行動できない人の手助けをどうしたらよいか？
- 伊豆山は住民のものであると、住民がまず思い、その意志が反映されるべきだと思う。新しくきれいな街を作ることが復興ではない。新しい街から“伊豆山”を消したらいけないと思う。
- このワークショップに参加して、改めて思ったことは、伊豆山を市長やコンサルの作品にしてはいけないということ。せっかく集めた意見やアイデアも実行しなければ、ただの絵に描いた餅である。前提条件だとされる川の両岸の道路も、市が住民の話も聞かずにたてた計画であり、そのために元の場所に戻れない人も居る。この災害で何も失くしていない人たちが、数えきれない程多くの大切なものを失くし、家族さえ奪われたわたしたちから、これ以上何を奪おうというのか。「復旧・復興」という言葉は免罪符ではないとの思いがこのワークショップを経験して益々強くなった。
- 元の場所に戻れた時、ワークショップに参加して、良かったな、意味があったなと思える状況になっているといいなぁ。
- いろいろな被災者の方の話を聞くことができてよかった。情報の共有が大切だと勉強になりました。
- みんなでできることは何か！！を話すとコミュニティと防災訓練になる。
- 議論することの大切さを痛感した。
- 最初は、ワークショップってなんだろうから～今日が最後⇒年１回ワークショップ同期会
  住民それぞれ考え方が違う→でも思いは１つ。
- 復興のため、自分の出来る事。
- 伊豆山の歴史（屋号）。

伊豆山復興まちづくりワークショップは閉会しました

伊豆山復興まちづくりワークショップは全５回を予定通り開催し、終了しました。ご参加いただいたみなさま、応援してくださったみなさま、誠にありがとうございました。

第１～３回ワークショップで意見交換・取りまとめていただいた内容は復興まちづくり計画に反映させていただき、令和４年９月２日に公表しました。詳細は熱海市ホームページもしくは、お持ちのスマートフォン等で右記の QR コードを読み取り、ご確認ください。
なお、通信料は各自のご負担となりますのであらかじめご了承ください。

また、第４・５回のワークショップでは、みらいの伊豆山の実現に向けて、みんなでできることを意見交換しました。今後の復興事業を進めていく際に参考とさせていただき、一日も早い復旧・復興となるよう計画を推進してまいります。

◆お問合せ◆　熱海市役所　経営企画部　企画財政課　復興推進室
〒413-8550　静岡県熱海市中央町 1-1　TEL 0557-86-6213／FAX 0557-86-6152
メールアドレス（fksuishin@city.atami.shizuoka.jp）まで